

1 本年度の重点教育目標

◎学ぶ楽しさを実感し ともに学び合う子

2 本年度の取組の重点

- 1 集団づくり（自立共鳴に必要な資質能力を集団の中で習慣づける。）
- 2 授業づくり（学びの環境を整え、子どもが主体的な学ぶ授業を実践する。）
- 3 連携づくり（家庭との習慣づくり、地域（CS）の力を子どもに生かす。）

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の適切さ	主な意見（改善策など）
確かな学力を育む学校教育の推進	研修を計画的に進め、児童の実態に基づき「わかる授業」を目指す授業改善を行っている。	a	複数体制や専科指導による個別指導を充実させるとともに研修を通して教員の資質向上を図る。	A	A	
	児童の思いや考えを広げ深めさせるための表現力・思考力・判断力を向上させる授業をしている。	b	1人1台端末を今後も有効に活用し、子どもが主体的に学習に取り組む姿勢を大事にしていく	A	A	
	学習指導の基礎となる万年橋スタンダードを意識し、徹底して指導している。	b	スタンダードを重点化し取り組んだ成果が上がっている。今後もスタンダードを大切にしていける。	A	A	
	一人ひとりに応じた指導を行うとともに、ユニバーサルデザインに基づいた指導や環境整備を心がけ実践している。	a	一人ひとりの困り感に組織的に対応できてきている。今後も学校と家庭の情報共有を密接に行っていく。	A	A	
豊かな心を育む学校教育の推進	道徳の授業を通して、豊かな心を育むために、様々な見方や考え方が身につくように指導している。	a	道徳の重点項目をさらに深め、特別活動を通して協働的な学びや自己決定の場を広げていく。	A	A	
	教育活動を通し自尊感情を伸ばし、自己実現できるよう支援している。	b	自分のよさを感じる児童が増えてきた。今後も、自信をもち活動できるように支援をしていく。	A	A	
	学校や学級の決まりを遵守させ、不安や困難を克服しながら、総体的に楽しい学校生活を目指している。	a	他と協働する力がついてきている。今後も集団で高め会える雰囲気大切に指導をしていく。	A	A	
	キャリアパスポートを活用し、なりたい自分を目指し、人間関係をよりよくしていく社会性が身に付くよう支援をしている。	b	キャリアパスポートに様々な取組をファイリングし、未来の自分を想像しながら、努力できる児童の育成を目指していく。	A	A	
健やかな体を育む学校教育の推進	安全教育を通して、児童に「自分の身は自分で守る。」意識が身につくように指導をしている。	a	今後お「自分の身は自分で守る」の意識を高め、安全第1に考えた教育を進めていく。	A	A	
	メディア機器を使って、インターネットやゲーム等を正しく活用するための基本的な知識や技能が身につくよう指導している。	b	1人1台端末の活用による情報モラル教育の充実を図る。また、家庭と連携し、ルール順守させるよう呼びかける。	A	A	ゲストティーチャー来航時の資料を、地域やPTAにも共有してもらえるとうれしいです。
	生活リズムや食育の学習を通し、生活習慣がしっかりと身につくよう指導している。	a	今後も、食育指導や保健指導を通して健康な生活を目指す児童の育成に努める。	A	A	
	感染症対策を心がけ、コロナウイルスに対する正しい認識や差別・偏見を払拭する指導をしている。	a	感染症対策を徹底し、教育を進めることができた。今後も児童の健康を守る教育を進めていく。	A	A	
学校における指導体制等の充実	本校は、職員の健康を保持し、児童と向き合う時間を確保するための働き方改革を進めている。	a	CSやPTAとも連携し、教員の時間が勤務の縮減に向けた業務改善や意識変革を今後も進めて、働き方改革を進めていく。	A	A	
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」を達成するために、授業や学校生活においてクロームブックを効果的に活用している。	a	1人1台端末を有効に活用するため、日常の様々な場面での活用を今後も続けて、情報活用能力を伸ばしていく。	A	A	
家庭・地域と連携・協働した教育活動の推進	児童に家庭学習の方法等アドバイスしたり、交流したりするなどして、家庭学習習慣を定着させている。	b	親子での家庭学習、1人での家庭学習を通じた家庭学習習慣を育成してきた。今後はより質の高い家庭学習を目指す。	A	A	
	学校は児童がよりよく育つために、コミュニティ・スクールの理念に立って様々な連携を図りながら教育活動を進めている。	a	コロナ禍においても地域人材や資源の活用を試みた。オンライン等も視野に入れ活用に充実を図っていく。	A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。